

軍用地料の「分収金制度」(6)

——字誌と字公民館——

瀧 本 佳 史
青 木 康 容

〔抄 録〕

本稿は沖縄社会において独特な存在として存続してきた伝統的な「シマ」を原初形態とする今日の地域自治組織の自治会と公民館の変容に関する考察の中から、民俗学や人類学などの分野からの多彩かつ豊富な学問的業績の文脈とは異なった社会学や行政学の文脈から今日のな特徴を持つ地域自治に光を当てようとする。すなわち「シマ」を継承した表現としての「部落」「区」「行政区」に関する今日の沖縄社会に見られる地域自治のありようを公民館、自治会、事務委託、本土“復帰”後に隆盛する字誌の刊行などの視点から考察しようとするものである。

キーワード：字誌、自治会、公民館、事務委託、地域自治

1. はじめに

社会学はその問題関心のひとつとして国家と個人との間に存在する集団に関心を寄せてきた。それは中間集団とも呼ばれ、全体と個とを媒介し個に対して生の意味付与を担う存在論的意義をもつ。社会統合の観点からそうした集団のもつ意義についてデュルケムをはじめとして近代社会学の始祖たちは注目してきた。教会、ギルド、伝統的なコミュニティなど旧来の中間集団の中に溶解する個を析出することで近代国家が成立したが、そうした自立する個の利益を代弁し国家権力から保護するのが近代において新たに生成した中間集団としての職業団体や労働組合といったアソシエーションであると社会学は説く。溶解というがそれは全体と個とが未分化であるということであり、個は伝統的な地域集団などに埋没し、埋没したとしてもそれは生の十全さにおいて個を充足させる小宇宙というものであった。そうした小宇宙を解体したのが近代であったが、近代において変容したとはいえなおその旧来の伝統性を維持する近隣社会

が崩壊したというわけではない。部落会、自治会、町内会、区会、町会などその名称は様々であるであるが、歴史的にはそうした住民の地域自治組織は近代国家の形成の中でやがて地域住民と国家行政機関とを連結させる団体として包摂され、国家統合の機関として利用されてきた。しかしそうした近代化の中でたとえいわば“世俗化”したとしても旧来の祭事等は地域社会の凝集性を維持する機能を失うわけではなかった。

伝統的な「シマ」の片鱗が今日なお沖縄社会において見られるとすればそうした例としてよいほどにシマの人々の相互関係の独特な濃密さを示す文献を今日数多く目にする。沖縄の本土“復帰”から10年ほどの1980年代から沖縄社会を構成する数百の字からその歴史的背景、移民・移住、戦争体験などの記録、記述を収録した「字誌」が溢れるように出版されてきた。その出版の結節点が戦後にすべての字が備えるようになった公民館であった。どのような経過があったのであろうか。

2. 字事務所と公民館

占領アメリカ軍の統治下にある琉球政府が、その統治下において米軍の定める政令、布令に従いながらどのような独自の法律を制定してきたのか、1972年の沖縄県としての“復帰”後においてその法制を本土と同一にするが、その中でどのような固有の法を県の条例、要綱、規則などとして存続させたのか、これは興味のあるところであるが、こうした関心を抱くのも占領下にありながら琉球政府が日本政府による戦後の法制定とその過程を注視してきたと思われるからである。

そうした琉球政府の注視の一つに「公民館」の設置に関する社会教育法(1949年、昭24)がある。その先鞭をつけたのは文部省次官通牒「公民館の設置運営について」(1946年、昭和21)であるといわれる。(菅井和子、1986)日本国憲法の施行は1947年(昭22)であるが、それに先立つこの素早い文部官僚の対応は新憲法制定の政治過程と相即のものであり、統治の正統性がぐらつく敗戦後の混乱した社会において地域社会の統制をいち早く認識していたということの現れであろうか。その次官通牒には「公民館」(そして“公民”という言葉も日常語ではなかったであろう)という当時では聞き慣れない名称のインスティテューションを伝統的な地域社会の民生安定の中核に据えようとする狙いがあったのであろうか。それは全国の町村に住民の集合場所として設置し生活や産業活動の指導を受け、かつ相互の交友を深め郷土の教養文化を高め、また旧来の青年団や婦人会などの事業活動とも連携する核として住民の自主性に基づいて設置されるものとされた。

文部次官通牒の影響があったのであろうが、1947年沖縄において米軍政府の補助機関であった沖縄民政府文化部は「市町村文化事業要項」を発表、この中で文化を涵養し文明人として成長するため地域住民が集会し共同で使用し得る文化施設について言及していたようだ。

(末本誠, 1988, pp.198-99) その後, 1952年島嶼を含めた全琉球を統合する琉球政府が設立され, 翌53年, 琉球政府中央教育委員会は「公民館設置奨励について」を発表, 公民館という呼称がはじめて一般に用いられるようになった。(小林文人, 2004)

こうして想定された公民館は公立のそれであったが, 焦土と化し土地の軍用地接収にあった当時の沖縄社会と財政状況からそれは望むべくもなかった。しかし新たな建物はなくてもよかったのである。すなわち戦火によって住居を破壊され強制移住にあった人々はかつての地域社会を再興しようと集落単位で集結していた。かつての字(区)事務所の再建を通して字を復活させようとしたのであった。すでに本土においては内務省訓令(第4号)によって町内会部落会廃止が決定されていたが(高木鉦作, 2005), そうであっても沖縄の字社会においては“村屋”(字事務所)は人々の心の中心であった。戦争によって物質的に破壊されたコミュニティを復興しようと字民たちが住宅建築や食料調達といった第1次的必要性から衆知を集める拠点が必要であり, 祭事, 教育, 娯楽の場としても活用したかった。ここに「公民館」という新しい理念がその対象を見つけるのは容易であったであろうから, やがて字事務所は字公民館となったのである。理念(idea)と利害(interest)との結合がここにはあり, また利害も自らの実現と正当性の表出を求めてそれに相応しい理念を探し出したのである。1952, 3年(昭和27, 8)頃から琉球政府の社会教育活動が展開され「従来の字事務所が公民館に改称され, 村内各字ではすでに新しい公民館を建築し活発な運営が行われていた」と読谷村の字誌はいう。(『楚辺誌』(民俗編), p.63, 1999) やがて沖縄の地域自治組織である区(字)事務所は「自治公民館」, 区長は「公民館長」と新たな名称をもって語られるようになったのである。

3. 字と自治公民館

社会教育を専門とする研究者の間で沖縄県の字, 集落, 公民館, 自治会による地域自治が目され, これを高く評価する文献を多く見るようになるのも80年代後半以降のことである。(小林文人・平良研一, 1988) 沖縄の集落にはもとより「豊かな自治」と「共同性」によって支えられてきたシマ社会があったのではないか, それがシマ(字)からの強制移住という戦後の悲惨な体験を経て今日においてなお継承され, それを表徴するのがいわゆる「自治公民館」だったというのである。

そうであるなら, 沖縄県においては地域自治組織に満ち溢れているかと連想するかもしれないが, 実は全国で最も自治組織の少ないのが沖縄県だ。総務省が2009年にまとめた調査によると, 自治会, 町内会, 部落会など地域住民による地縁団体数は29万4359, その中で団体数が最も多いのが北海道(1万5467), 次いで茨城県, 愛知県とあり, 最も少ないのは佐賀県(2770), 山梨県(2170)そして沖縄県(1071)の順であるという。すなわち全国最低なのである。表1は沖縄県の人口数に近い県だけを並べて地域の自治組織の総数を示したものであ

る。(日経グローバル, No.122, 2009. 4. 20)

140万人という人口数において同等な県に比べてどうして沖縄県の自治組織数は極端に少ないのか。山口県は沖縄県の7倍の自治会数である。これは興味深い現象だが、だからと言って沖縄県住民の自治意識が劣るといふわけではないことは字や公民館の諸研究が示しているところだ。

「シマ」「ムラ」「字」とその名称は時間の変遷とともに変化してきたが、沖縄における地域自治の最小単位である「シマ」は明治以降の変貌する市町村制の地方行政によって明治国家に包摂され「字」と呼称される。その下にあってもなおそれぞれの「字」がそれ固有の伝統的な行動様式を維持し続けると共に、近代地方行政が地域秩序のために求めた婦人会や青年会などの団体形成ばかりではなく、近代学校行政の下にあってもそれぞれの「字」が「学事奨励会」や「字図書館」を設置するなど、行政全般から祭事等まで独自の地域自治を沖縄県は行ってきた。ひとつの「字」はおおよそ戸数100から300であり、それぞれに競い合いながら異質性と共通性をもつ字文化を創り出そうする、これが沖縄の地域自治であった。それを担うのが字事務所(自治会)かつ公民館である。両者は異なった組織ではなくコインの両面ともいふべき機構として「自治公民館」と呼ばれるのはこうした事情からである。それぞれの「字」がそれぞれの公民館運営規約を備え、字(区)民総会の下に運営されるのである。かつ字自治会は、区長、区長代理、書記、会計、各組の組長などの役職を定め、また字費徴収や村からの補助金や財産収入による相当な規模の財政計画までも備え、戸主会の下に字行政に関する重要な意思決定を行うのである。たかが「字」というには物々しい機構と財政を備えている。

表1 都道府県人口(平成25年10月1日現在)

	人口数(単位千人)	自治会等
山口県	1,420	7,328
滋賀県	1,416	3,522
沖縄県	1,415	1,071
愛媛県	1,405	5,439
長崎県	1,397	4,487

出典:総務省統計局 HP から作成

4. 「公民館」の諸形態

沖縄県における公民館に関して、「公立公民館」と「自治公民館」(字公民館)との二つの種類があるとされるが、公民館と呼ばれる施設が法の適用を受けるのであれば「自治公民館」(字公民館)もまた「公立」の公民館である。何故ならそれは「公の施設」であるからだ。したがって公立公民館と非公立公民館と分類した方が分かりやすい。

一般に公民館は社会教育法に基づき条例によって市町村が設置する施設(同法第21条, 第24条)で、これが“正統”公立公民館(全国公民館連合会のいう「条例館」)だ。また一般法人(財団法人, 社団法人)も公民館の設置目的(同法第20条)に従えば公民館を設置することができる。これがもうひとつのタイプの公民館だ。(同法第21条の2)つまり地方自治法によって地縁団体として認可されれば字もまた公民館を設置することができる。「学習等供用施設」「生涯学

習センター」なども公民館の類似施設(社会教育法第42条)とされ、地方自治法(第244条2の第1項)の規定に基づいて条例で定められる「公の施設」である。字によってはこれを「公民館」と呼ぶのである。公民館であれその類似施設であれその設置や管理に関して条例によって設置されるのであるから「公の施設」である、かつ「指定管理者」を定め法人その他の団体に委託することが出来る。(地方自治法244条の2の第3項)これが「公立公民館」として言及されてきたのである。「公の施設」であるから館長、主事、職員などの管理者の配置とその報酬はもちろん市町村責任の財政支出となる。

市町村はそのような公民館運営の条例を定めなければ公民館と呼んではならないわけではない。実際そのいずれの法適用を受けない施設があり、これを通称「公民館」(全国公民館連合会のいう「自治館」とすることがある。それが表2に示した「いずれでもない」公民館である。しかしこうした「公民館」は条例に依っておらず、社会教育法を厳密に読めば「公民館類似施設」として想定されているのでもないことが分かる。例外的なのがある市だ。社会教育法にも地方自治法にも依らないがそれでも公民館と規定する条例を定めている。他の市町村が

表2 公立公民館と非公立公民館

	社会教育法		地方自治法	いずれでもない	自治会総数
	中央公民館	地区館	公民館	公民館	
那覇市	1	6			61
宜野湾市	1		23	1	24
浦添市	1	1			40
名護市	1			55	55
糸満市			1	63	63
沖繩市	1			37	37
豊見城市	1			48	48
うるま市	1	2		60	63
南城市	1			71	71
国頭村	1	10		9	20
大宜味村	1			17	17
東村					6
今帰仁村	1		1	18	19
本部町	1	6		21	27
恩納村					16
宜野座村	1		4	2	6
金武町	1	5			5
伊江村	1		8		8
読谷村			1	28	28
嘉手納町	1		6		6
北谷町	1		11		11
北中城村	1		7	6	14
中城村			4	17	21
西原町	1				32
与那原町	1		2	13	16
南風原町	1			19	19
八重瀬町	1			33	33
	18	23	68	518	866

「自治公民館」の活動に対する補助金規定を設ける条例がない中で、うるま市は「市立公民館条例」のほかに「自治公民館補助金交付規則」を設けた。表3に示しているように、石川、勝連、与那城の公立公民館以外に63もの自治公民館に対して「地域の教育、学術及び文化に関する各種事業」を行うなら支援するとしている。これらは社会教育法にも地方自治法にも依拠しないので「公の施設」ではない。表3は沖縄県に非公立の公民館が如何に多いかを示し

表3 沖縄県市町村の公民館の設置状況

市町村の条例に基づく「公民館」の諸形態（社会教育法と地方自治法によるものの2つのタイプがある）

那覇市	
宜野湾市	市立の中央公民館のほか、市が認定要件（世帯数500以上）とした自治会は23あり、ほぼすべてである。
浦添市	中央公民館と分館のほか市立城間公民館という地区館がある。
名護市	中央公民館が設置されてるが、例規集にその規定はない。
糸満市	市立の「生涯学習センター」を設置。
沖繩市	市立の中央公民館のみ。
豊見城市	市立の中央公民館のみ。
うるま市	市立の公民館。石川、勝連、与那城の3地区に設置。
南城市	市立の中央公民館を字富里に置く。分館が字前川と字船越にある。
国頭村	20の行政区のうち11地区（辺野喜、奥間、安田、楚洲、桃原、安波、辺戸、佐手、辺土名、半地、浜の自治会）に村立の「自治公民館」を設置。
大宜味村	村立の公民館がひとつ、つまり中央公民館として字喜如嘉に設置委託。
東村	？
今帰仁村	村立の「中央公民館」を設置、さらに「コミュニティセンター」を仲宗根自治会に置く。
本部町	町立の中央公民館のほか、町立の公民館（分館ではない）が27の字のうち具志堅、謝花、浦崎、東、浜元、谷茶の6地区に置くが、それは公立の「自治公民館」という意味でもある。
恩納村	？
宜野座村	村立の中央公民館を字宜野座に設置。また松田、惣慶、漢那、宜野座に公の施設として地区公民館（宜野座は「コミュニティ施設」と命名）を置くが福山、城原の両地区の公民館に関する規定がない。それでも村から行政補助金が出ている。
金武町	町立の中央公民館を金武区に置くほか、並里、伊芸、屋嘉、中川、金武の行政区すべてに公立の「自治公民館」を設ける。また金武町字金武の喜瀬武原地区（人口36人、19世帯）に農民集会所を設置。同様に金武町は伊芸地区集会所を公民館とは別途に設置。
伊江村	村立の中央公民館を置くと共に「学習等共用施設」という別名を持つ公民館がすべての字に設置され、結果として公立の「自治公民館」となっている。
読谷村	公立の公民館名称の設置はない。その代替施設としてか地方自治法による「文化センター」のほか独自に定めた「楚辺多目的ホール」「青少年センター」がある。
嘉手納町	町立の中央公民館。さらに「コミュニティセンター」と呼ぶ「学習等共用施設」が6自治会のすべてにある。
北谷町	「学習等共用施設」を11の行政区すべてに設置。結果として公立の「自治公民館」として機能している。
北中城村	村立の中央公民館を字仲順に設置、さらに「学習等共用施設」が15の字のうち喜舎場、熱田、和仁屋、渡口、鳥袋、安谷屋、大城の7字に「自治公民館」と命名し設置。その意味で公立の「自治公民館」。
中城村	「学習等共用施設」として設置するが、「コミュニティ共用施設」と命名し久場、登又、南上原、泊の4つの自治会に運営を委託する。委託料はない。
西原町	町立の中央公民館が置かれている。
与那原町	町立の公民館を浜田地区に設置。さらに類似施設として「コミュニティセンター」を行政区の浜と東浜に設置。この二つは公立の「自治公民館」と入して機能。
南風原町	町立の中央公民館のみ。
八重瀬町	町立の中央公民館を字東風平に置くほか、23の字の中で具志頭に分館を設置するのみ。

ている。(表3には中央公民館は分館のある場合もその分館数に括らず1館として表示している。)

5. 自治会への補助金交付規定

沖縄県の市町村には地域の自治活動を担う自治会の育成を目指してその活動の振興に要する経費や自治会館の建設もしくは補修に補助金を交付する市町村がある。表5①に見るように(文末に掲載)、宜野湾市、浦添市、沖縄市、豊見城市、うるま市、嘉手納町、北中城村、西原町、八重瀬町の9市町村だ。それぞれの補助金交付規定に見る記述はさまざまであるが、大きく分けて消耗品費、印刷製本費、光熱費など通常の自治会活動に要する運営経費と、教育や文化など各種の新たな企画活動に対する事業経費がある。事業費は毎年度ごとに一定しないだろうが、運営費はおおむね自治会あたり均等割で10万円に加えて世帯割もしくは人口割を併用する程度の金額である。ただ浦添市だけは均等割は183,000円とある。ヒアリングで分かったことだが、例規集を見るとそうした規定はないのに自治会への運営補助金を支給するのが北谷町であった。11の行政区に年間220万円~278万円まで補助金が計上されている。(2014年8月調査)

自治会館など建物の新築、増築、改築、補修、あるいは買取など自治活動に必要な容れ物を補助金交付の対象とする市町村は少なく、糸満市、南城市、宜野湾市のみである。宜野湾市はそうした事業補助金を事業費の2分の1以内、2500万円を限度とするとする。(「宜野湾市自治会育成補助金交付規則」第10条)糸満市は300万円(「糸満市自治公民館建設及び用地購入補助金交付要綱」)、南城市は1500万円(「南城市ムラヤー(自治公民館)建設補助金交付要綱」)の限度額を設けている。糸満市、浦添市、南城市には、住民数の増加による行政区数が増えるためなのであろうか「自治公民館」の建設ばかりではなく用地購入に向けた補助金交付の規定がある。また浦添市には公民館の賃貸料への補助金が交付される要綱がある。(「自治会事務所等賃貸料補助金」)南城市の自治公民館に関する要綱名に「ムラヤー」とあるように、沖縄市町村の中で唯一自治公民館を「ムラヤー」として言及する稀有な例である。なお付け加えると公民館の建て替えや新設には、沖縄が県として“復帰”する以前には占領軍の「高等弁務官資金」による補助があったが、復帰後には文部省や防衛庁などの国庫補助金による支援があった、また基地関連事業の一環として資金援助は今後もあるだろう。

6. 沖縄県の町村制

1879年(明治12)琉球藩は沖縄県として新たに発足する。その市町村制はいわゆる旧慣温存政策のために琉球王国以来の制度が存続し、本土の町村制(1888年、明治21「市制町村制」法

律第1号)とは異なった展開となった。明治政府は1897年(明治30)「間切吏員規程」を發布、地域の行政機関としての間切番所を「間切役場」、地頭代を「間切長」に改称し、知事の任命制とした。さらに1907年(明治40)に明治政府は島嶼行政に向けて「沖縄県及島嶼町村制」(勅令第46号)を制定、この勅令が旧制度の間切制を廃止したことすなわち旧慣制度を払拭したことを示すのは、間切を「村そん」、従来の村むらを「字あざ」、また間切長は「村長」、村頭・耕作は「区長」という呼称を用いた条文である。興味深いのは村長と区長との扱いである。区長は官選官吏の「郡長」(島尻、中頭、国頭の郡役所)と「島司」(宮古、八重山の島庁)による任免制(同令第9条)、村長も県知事による任免制であるが有給吏員(つまり公吏)であるとした。(同令第8条)しかし区長は名誉職、無給であった。

1920年(大正9)になってようやく沖縄県に市町村制が施行され本土と同等になる。町村長(町村制第53条)も区長(同第64条)も共に町村会における選挙、すなわち町村議員によって選出されるが無給の名誉職となり、区長は町村長の補助機関となった。(同第73条)因みに表4は旧制度からの呼称の変遷を整理したものであるが、必ずしも時間的にそれぞれが対応しているわけではない。

戦後の沖縄県の地方行政は本土と異なった法制のもとにあった。市町村長および市町村議会議員の選出のために沖縄の「市町村制」を定めた米軍政府指令第4号、同26号が公布されたため、1948年(昭和23)村議会が新たに発足した。区長は字民が選挙し村長が形式的に任命することとなっていたが、村長はそれに先立ち区長について議会の同意を求めることがあった。こうした区長身分の不明確、曖昧性から琉球政府は区長制を廃止しようとするが、沖縄の市町村会は挙って「行政執行の実情無視」であるとして強く反対(金武町議会史, 2004, pp.159-60)。それでも1962年(昭和37)に至って琉球政府は市町村自治法改正、補助機関としての区長制を廃止、つまり区長は市町村の行政機関ではなくなった。そのため区長は身分を喪失する。字民選挙によって選出された区長が行う従来の行政事務は市町村からの委任事項となった。区長は再び名誉職、無給となる。(これは公費支給が無いということ。所属地区の区費からは手当が見込めたであろう)

戦前の法令にあった「区長」という区域を代表する職制を戦後の法令に見ることが出来ない。地方自治法に定められた特別公共団体を別として、地方公務員法においても公職選挙法においても「区長」という用語を見ない。それにも拘らず、区域という字単位の行政事務を委任

表4 役職呼称の変化

集落呼称	[シマ]	→ 村むら	→ 村むら	→ 字あざ(部落)	→ 区	→ 行政区
集落行政	村屋ムラヤー	→ 村屋ムラヤー	→ 村屋ムラヤー	→ 事務所ジムス	→ 区(字)事務所	→ 公民館
集落長	掟ウッチ	→ 掟ウッチ	→ 村頭	→ 耕作	→ 区長	→ 自治会長(公民館長)
広域呼称	間切	→ 間切	→ 村そん			
広域行政	間切番所	→ 間切役場	→ 村役場			
広域行政長	地頭代	→ 間切長	→ 村長			

する必要性は一層増してきた。こうして地方自治法による「事務の委任」(第252条の14-16)に則り町村長は区域の代表者との間に任意の事務委託契約を締結し報酬が支払られることとなった。これは委任期間を定められた契約であるので常勤の有給職というものではない。こうして区長が行政の末端を担うこととなったが、行政機関がそうした住民組織を行政の末端として利用することについての問題史は政治学や社会学の地域研究者の間でよく知られてきた。

ともあれ今日、市町村の行政組織のいくつかの部署の業務には自治会を通じて住民に行政情報を周知させるものがあり、上級機関からの一般の行政事務に協力を求め、あるいは各種の調査に協力を依頼することは通常の仕事とみなされている。そうした仕事のために市町村は自治会などとの間で契約を締結することが「事務委託」といわれるものである。自治会との間で契約とはいうが、実際の契約は市町村長と自治会長など個人との契約であるので委託事務費は実質的に個人の所得と見做されている。

因みに、沖縄県市町村においてはどのような事務が自治会長への委託事務となっているのか、これを北谷町の例規集から「事務委託要綱」を見てみると以下のようであった。

- 町民への連絡、調査等に関すること。
- 町民からの要望事項に関すること。
- 各種募金の募集に関すること。
- 町が行う行事等への協力に関すること。
- 各種委員等の推薦に関すること。
- 議会報の配布、調査等の協力に関すること。
- 教育行政に関する連絡、調査等に関すること。
- 選挙に関する連絡、調査等に関すること。
- 水道事業に関する関係者への連絡、調査等に関すること。
- 町長と自治会長が協議して定める事項に関すること。

事務を委託した自治会等には委託料を支払うことを約束する法的根拠を定めた条例、要綱、規則など自治体によってさまざまに設けられる。Website から市町村の事務委託に関する資料を探ると多くの情報を得ることができるが、その中で京都府が行った調査(「市町村より境域の範囲で活動する住民自治組織に関する実態調査」、これは京都府下の全市町村に対するアンケート調査、調査時期は不明だが2000年から2006年までの年度)があった。そこから事務委託に関する詳細な情報を得ることができるが紙幅の都合で表を示せない。

事務委託に関して、2014年8月のヒアリングから得た沖縄県市町村の表5⑦と京都府市町村を比べてみると年間の委託報酬額が著しく異なるのである。沖縄県においては平均200万円を超えるのに対し、京都府では40万円を超えることがあるのだろうかと思われるほどであ

軍用地料の「分収金制度」(6) (瀧本佳史・青木康彦)

表5 沖縄県市町村の公民館設置規定、行政事務委託、委託料

	世帯数	人口数	①自治会への補助金規定	②公民館設置規定	③事務委託規定	④行政事務委託料(月額)	⑤自治会数(自治会長数)	⑥行政事務委託費(2014年、単位:千円)	⑦/⑤年額報酬(単位:千円)	⑦財産収入(2011)(単位:千円)	⑧市町村所有軍用地面積(単位:千㎡)	⑨財政力指数
那覇市	143,512	322,549	?	○	?	?	161	44,809	278	403,315	18	0.76
宜野湾市	39,758	94,267	○	○	?	(9万円~12万円)+α	23	80,537	3,502	190,950	78	0.64
浦添市	46,660	113,980	○	○	○	10万円+α	40	77,555	1,939	104,004	0	0.74
名護市	27,673	62,053	×	×	×	不明	55	135,909	2,471	2,070,159	15,662	0.45
糸満市	23,729	59,804	×	○	○	¥39500+α	73	121,624	1,666	99,684	1	0.43
沖縄市	56,831	137,610	○	○	×	不明	37	112,994	3,054	1,106,536	4,787	0.53
豊見城市	23,308	61,351	○	○	○	¥36000+α	48	43,135	899	196,350	0	0.52
うるま市	48,221	121,320	○	○	×	不明	63	171,120	2,716	449,562	1,203	0.47
南城市	15,595	42,069	×	○	○	金額記載なし	71	86,640	1,220	58,879	0	0.35
国頭村	2,422	5,072	×	○	×	不明	20	29,628	1,481	64,336	359	0.21
大宜味村	1,678	3,291	×	○	×	不明	17	28,091	1,652	42,427	0	0.13
東村	909	1,946	×	×	×	不明	6	14,598	2,433	10,519	0	0.17
今帰仁村	4,162	9,584	×	○	○	委託予算額×1.7	19	28,369	1,493	10,079	0	0.21
本部町	6,172	13,662	×	×	×	不明	27	35,437	1,312	29,095	12	0.26
恩納村	4,849	10,847	×	×	×	不明	16	33,306	2,082	1,816,973	12,259	0.63
宜野座村	2,247	5,860	×	○	×	不明	6	13,776	2,296	1,851,388	14,312	0.34
金武町	5,135	11,469	×	○	×	不明	5	31,677	6,335	1,908,562	14,524	0.35
伊江村	2,210	4,750	×	○	○	年額 293万円	8	?	?	114,726	368	0.16
読谷村	14,790	40,669	×	×	×	不明	28	35,000	1,250	562,617	3,203	0.5
嘉手納町	5,396	13,825	○	○	○	金額記載なし	6	40,344	6,724	668,968	1,814	0.44
北谷町	11,487	28,752	×	○	○	¥195500+α	11	37,992	3,454	1,305,175	38	0.59
北中城村	6,548	16,880	○	○	○	¥177300+α	14	44,790	3,199	46,064	22	0.48
中城村	7,388	18,995	×	○	○	¥141400+α	21	54,954	2,617	11,862	0	0.47
西原町	13,652	35,127	○	○	○	?	32	56,262	1,758	13,860	0	0.6
与那原町	7,290	18,584	×	○	○	「別に定める」とある	16	31,756	1,983	7,829	0	0.4
南風原町	13,552	36,959	×	○	○	「別に定める」とある	19	42,540*	2,239	22,109	0	0.59
八重瀬町	10,749	29,287	○	○	○	金額記載なし	33	42,192	1,279	371,473	6	0.38

世帯数、人口数は2014年現地調査から、但し東村はH24年、宜野座村、嘉手納町はH25年のもの。

△東村は条例はないが公文書公開請求が可能。

「?」: ホームページにあるものの当該事項にアクセスできなかつたことを示す。

「×」: ホームページにおいて一切アップされてないことを示す。

「委託料」にある「+α」とは、世帯数や人口数によって加算される額があることを示す。

世帯割や人口割によって加算される基準額は自治体によって多様である。

る。北谷町役場でのヒアリングで得た資料では年間委託料の最も高いのはA区の4042千円、最も低いのはB区の2874千円というものであった。ただし那覇市の場合、例外的に低い。本土並みというべきか。

こうした違いは委託事務の種類や質の違いからくるのだろうか疑問が生じるが、北谷町の「事務委託要綱」に見られるように殆どの事務が行政からの文書配布や取次のようなものであるから大きな相違があるとも思われない。沖縄県の場合は軍用地料収入が見込める市町村があるからそれだけ財政が潤沢であると言えるかもしれないが、軍用地を抱えていない市町村もあり必ずしもそのようには断定はできない。また自治公民館は職員（多くは1名）を置いていることが多いのでそうした人件費は委託契約に含まれるのかとも思われるが、本来、自治会長個人が委託を受けるので職員給与に廻すとも思われないから、それは区費などから賄うのだろうと考えられる。ただし、西原町には「自治会運営補助金交付規程」に書記に対して月額45000円支給するとある。

なお表5④において「委託料」にある「 $+α$ 」とは、世帯数（世帯割）や人口数（人口割）によって加算される額があることを示す。世帯数や人口数によって加算される基準額は自治体によってさまざまだ。また半都市的、半農村的であるからだろうか糸満市と南城市には農家戸数割というのがある。なお沖縄県においては条例によってどの市町村においても、「委託料」には期末報償金が6月と12月に支給されるので（これも本土の市町村には皆無だ）、被委託者の報酬は月額×12以上のものになる。

表5において目に付くのは嘉手納町である。他の市町村と比べてやや複雑で事務委託費と自治会運営費とが未分化で外からはその実態が分かりにくくなっている。他の市町村にあるような事務委託要綱のような規定がなく、委託費が自治会運営補助金に含まれるので自治会長の人件費が条文の上からは判別できない。補助金に人件費として自治会長及び書記の給料、役職手当、特殊勤務手当及び期末手当（「嘉手納町自治会運営補助金交付規定」第2条）、これに区事務運営費と区内団体育成費（同第5条）などの総計が補助金として交付されるからである。そのためか表5⑦に見る2014年度の事務委託費は年間627万円と群を抜いて高くなっている。金武町もまた634万円と同水準であるがその理由は分からない。

同様に、宜野湾市においても事務委託要綱という明文化された規定はないが、事務委託に関しては先の「宜野湾市自治会育成補助金交付規則」において規定されている。「自治会は、市政運営に協力するものとして、次に掲げる事務を処理しなければならない」（第3条の2）とあり、自治会による「協力」が自治会の運営と事業への補助金交付の条件となっていて、運営費の段階別基本額（1500世帯以上）の9万円（月額であろう）に世帯割が加算されるとしている。（第5条）事業費補助金に関しては、当該事業に要する経費の2分の1以内の範囲で補助する（第10条）とあるが、嘉手納町のそれと比べて人件費に関する記述が見当たらない。

自治会や町内会に対する市町村の事務委託に関して全国市町村のホームページを探ってみる

と、委託事務の内容、委託契約の方法、委託費の算定など実に多様である。沖縄県市町村の場合、表 5③でみるように行政事務委託に関してそれを条例や規則など法令で定める市町村は半数ほどである。本土の調査においては 8 割近くの市町村がそうした法令を設置していない。(森, 2002, p.323)

委託契約を受ける側である自治会などについて事務委託の要綱を見ると、糸満市を例外に本土の市町村にしばしば見受ける「行政協力員」(糸満市は「自治連絡員」というのはなく、自治会という末端行政組織の「代表者」あるいは町村長が「適当と認める者」という表現が使われ、現地調査をしてみるとそのすべてが自治会長(自治公民館長)である。そうした人々との間の契約は通常の契約関係なのであろう。法令に依らなくても委託事務契約を締結できるのであるから NPO 法人などとの契約と質的に変わらないのかもしれない。あるいは地方公務員法(第 3 条第 3 項の 3)に基づく非常勤職員の顧問、参与、調査員、嘱託員などとして事務委託を受けるのであろうか。(付記: 行政情報に関して Website を探ると沖縄県の市町村には概して積極的に開示しようとする自治体が多いが、そうでない自治体もある。北部の某村はホームページは持つが本稿で必要とする例規集、情報公開などの情報を一切提供してないようだ。)

7. 沖縄の字誌

沖縄の市町村自治体を訪問し、調査させていただく過程でところどころで話題に上る「字誌」には、のどに小骨の刺さったような感じが付きまとっていた。本土では自治体が市町村史を編纂し、発行している。沖縄でも市町村史は盛んに発行されている。同時に市町村の下単位、字や区、自治会や公民館が作り上げてきたもので、自分たちの体験が証言として残されている。沖縄の古来の話を伝承する人、戦争体験を語る人、米軍基地とのかかわりを語る人、等しく年齢を重ねて行き、聞き取りができなくなるのは必然である。今後、活字として残された証言は貴重な遺産となっていく。

沖縄県立図書館や琉球大学、沖縄国際大学の附属図書館、各市町村の図書館に収蔵されているが、完全に網羅されているものでもなく、全体像をつかむのは雲をつかむような感であった。今夏、浦添市立図書館の沖縄学研究室で『字誌づくり入門』⁽¹⁾に出会った。巻末に資料として 1988 年までの字誌等の目録が載っている。ネットで字誌を検索すると、「純志のページ」⁽²⁾に字誌一覧があり、2005 年時点までのもの、735 点が掲載されている。名護大百科事典 Nagopedia 試行版⁽³⁾にも名護・山原の字誌等一覧があり、2000 年以前の情報がある。2002 年発行の字誌まで網羅しているのは名桜大学中村誠司教授の「[沖縄の字誌等書誌目録] 解説および一覧」⁽⁴⁾であり、637 点掲載されている。字誌の全体像を俯瞰するには同教授の「沖縄の字誌づくり」⁽⁵⁾がある。

2000 年以降の字誌情報としては、『沖縄史料編集紀要』⁽⁶⁾に字誌・郷友会誌 99 冊が載って

いる。最近の字誌の刊行に関しては、図書館に頼るのと現地調査の過程での収集になる。沖縄県立図書館では、みーぐるぐるサーチ（沖縄県図書館横断検索）として県内の複数の図書館を検索することができる。字誌と2000～2014年のキーワードで検索すると、県立図書館48点を筆頭に、130点がヒットする。各図書館での重複があるので件数は減少するものの、最新情報が得られる。

最後の手段としては現地調査での収集であり、2013年度より科学研究費補助金⁽⁷⁾をえて、7-9月、2-3月に現地調査し自治体や区・自治会のヒアリングの合間に字誌40点以上を発見している。結果として字誌リストは638点となっている。表6から地域と年代別に発行数をみると、全体としては戦前に発行された字誌は1.4%と少なく、本土復帰前に発行されたものが4.7%である。復帰から80年代に発行された字誌が多く40.3%に達している。90年代では27.1%、2000年以降では25.5%である。地域別にみると復帰から80年代では離島・先島で63.7%と多く発行されている。それに続くのが北部の42.4%である。字誌の発行は中部に波及し、南部にも広がる。2005年時点での735点から638点への減少は学術的研究と教育委員会など自治体の発行を除いたのが主たる理由である。字誌の25.5%が2000年以降に発行されており、ヒアリングの過程でも発行準備中との報告が多くなされている。

表6 字誌の年代別発行数

	発行年不明	戦前	- 復帰	72-89	90-99	2000-14	計	N
北部	0.5	1.0	5.1	42.4	23.2	27.8	100.0	198
中部	0.8	1.7	4.2	24.2	31.7	37.5	100.0	120
南部	1.7	1.7	0.8	13.4	42.9	39.5	100.0	119
離島・先島	1.0	1.5	7.0	63.7	18.9	8.0	100.0	201
全体	0.9	1.4	4.7	40.3	27.1	25.5	100.0	638

字誌リストは巻末資料

〔注〕

- (1) 名護市史編さん室, 1989『字誌づくり入門』名護市教育委員会
- (2) <http://osm.a.la9.jp/rekisi/azasiitiran.htm>
他に, 市町村史 713 点, 未刊を除くと 583 点が掲載。
<http://osm.a.la9.jp/rekisi/sityosonnsi.htm>
- (3) https://sites.google.com/site/nypedia/home/nago_yanbaru_azasi
- (4) 中村誠司, 2004 「『沖繩の字誌等書誌目録』解説および一覧」『沖繩の字(集落)公民館研究』第 2 集 九州大学大学院人間環境学研究院
- (5) 中村誠司, 2005 「『沖繩の字誌づくり』既刊字誌の目録情報のデータベース化」『沖繩の字(集落)公民館研究』第 3 集 九州大学大学院人間環境学研究院
- (6) 城間良昭, 2012 「2000 年以降の沖繩戦関係刊行物について」沖繩県教育庁文化財課史料編集班『沖繩史料編集紀要』第 35 号
- (7) 平成 25-27 年度科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金(基盤研究(B))「軍用地と地域社会 - 沖繩県における軍事基地と軍用地料に関する地域社会学的実証研究」(研究課題番号 25285161)

〔参考文献〕

- 菅井和子, 1986 「公民館の設置運営に関する研究: 公民館の誕生」教育学雑誌第 20 号
- 小林文人・平良研一, 1988, 民衆と社会教育: 戦後沖繩社会教育研究, エイデル研究所
- 小林文人・鳥袋正敏, 2002, おきなわの社会教育, エイデル研究所
- 小林文人, 2004 「沖繩の集落自治と字公民館をめぐる法制」, 沖繩の字(集落)公民館研究第 2 集, 九州大学大学院人間環境学研究院
- 末本 誠, 1988 「琉球政府下, 公民館の普及・定着過程」, 小林文人・平良研一編, 民衆と社会教育, エイデル研究所
- 森 裕亮, 2012 「利益集団政治と地方政府財政の課題: 地方政府・自治会間関係と行政委嘱員制度に焦点を当てて」, 会計検査研究 46
- 史料 日本の地方自治 第 1 巻 近代地方自治制度の形成, 1999, 学陽書房
- 高木鉦作, 2005, 町内会廃止と「新生活共同体の結成」, 東京大学出版会

(たきもと よしふみ 公共政策学科)
(あおき やすひろ 元佛教大学社会学部教授)
2014 年 10 月 31 日受理

沖縄の字誌リスト

No.	書名	編著者名	発行所(者)	発行年
	【北部】【国頭村】			
1	字奥の事績	奥有志会		1918
2	大瀧十周年記念誌	比地郷友会	比地郷友会	1969
3	安田のシヌグ考	宮城定盛	宮城定盛	1976
4	南米比地移民誌	在那覇比地郷友会・大城吉義編集	在那覇比地郷友会	1980
5	沖縄国頭の村落	津波高志他	山原	1982
6	かにまん - 在那覇奥間郷友会結成三十周年記念誌	在那覇奥間郷友会	在那覇奥間郷友会	1982
7	やんばる 風俗図絵	神山清政		1984
8	人生八十年の歩み - 私のこと奥のこと	宮城親昌	宮城親昌	1984
9	字誌 奥のあゆみ	字誌奥のあゆみ刊行会	奥区	1986
10	ほうまく - 佐手郷友会結成 30 周年記念誌	佐手郷友会	佐手郷友会	1988
11	国頭村の昔話	遠藤庄治・丸山顕徳・安里和子	同朋舎	1990
12	国頭村安田の歴史とシヌグ祭り	宮城鉄行	未来工房	1993
13	国頭字誌	国頭字誌編集委員会	国頭字誌編集委員会	1995
14	奥の歩み	浦崎直次	奥区	1998
15	写真集 奥の肖像	坂井和夫	坂井和夫	1998
16	辺野喜誌	辺野喜誌編集委員会	辺野喜区	1998
17	清流に育まれて - 奥間川流域生活文化遺跡調査報告書	奥間川に親しむ会	奥間川に親しむ会	2000
18	辺土名誌 (上・下)	辺土名誌編集委員会	辺土名誌編集委員会	2007
19	与那誌	与那誌編集委員会	与那区	2013
20	安田史誌・あらは		安田区	2014
	【大宜味村】			
21	大正十一年五月以降議事録 田嘉里青年会	田嘉里青年会		1922
22	喜如嘉	平良景太郎	平良景太郎	1965
23	大兼久 - 発足 10 周年記念誌	那覇近郊在住大兼久会	那覇近郊在住大兼久会	1965
24	喜如嘉の民俗	平良豊勝	平良豊勝	1970
25	民具の家	平良景昭	平良景昭	1973
26	村と戦争 - 喜如嘉の昭和史	福地曠昭		1975
27	大兼久 20 周年記念誌	那覇近郊在住大兼久会	那覇近郊在住大兼久会	1975
28	喜如嘉の古い童謡と民謡 - レコード解説	山城善光	リユーオン企画	1976
29	喜如嘉の葬制と墓制	福地曠昭		1978
30	火の葬送曲 - 続・やんばるの火	山城善光	火の葬送曲刊行会	1978
31	大宜味のむかし話	福地曠昭	大宜味村教育委員会	1980
32	芭蕉布の里の歴史とくらし	北部農業改良普及所大宜味支所	北部農業改良普及所大宜味支所	1982
33	フナガヤ - 実証言集	山城善光	山城善光	1982
34	大宜味村謝名城郷友会 30 周年記念誌	謝名城郷友会	謝名城郷友会	1982
35	ふあるやま - イギミの里・地名考	福地曠昭	那覇出版社	1983
36	喜如嘉の芭蕉布 - 喜如嘉の芭蕉布保存会テキスト	喜如嘉の芭蕉布保存会	喜如嘉の芭蕉布保存会	1984
37	大宜味村謝名城の民俗	新城真恵	若夏社	1985
38	大宜味やんばるの生活風景 - 根路銘村落の習俗と子供の遊び	外間治男	外間治男	1985
39	根路銘誌		根路銘区	1985
40	塩屋・ウンガミ - 沖縄県大宜味村塩屋ウンガミの記録	平良孝七・撮影/塩屋ウンガミ刊行委員会	塩屋ウンガミ刊行委員会	1986
41	やんばるの女一代記 - 宮里悦自伝	宮里悦	沖縄タイムス社	1987
42	大宜味大工一代記	金城賢勇	金城賢勇	1988
43	大兼久誌	大兼久誌編集委員会	大兼久区	1991
44	創立三十周年記念誌	大宜味村老人クラブ連合会記念誌編集委員会	大宜味村老人クラブ連合会	1994
45	写真集・喜如嘉	喜如嘉誌編集委員会	喜如嘉誌刊行委員会	1995
46	戦前における喜如嘉の農林業	宮城 剛信	宮城 剛信	1995
47	喜如嘉誌	喜如嘉誌編集委員会	喜如嘉誌刊行委員会	1996
48	塩屋橋物語 - 心の遺産	塩屋橋物語編集委員会	沖縄総合事務局北部国道事務所	2000
49	塩屋誌	塩屋誌編集委員会	塩屋区公民館	2003
50	津波誌	津波誌編集委員会	大宜味村津波区	2004
51	饒波誌	饒波誌編集委員会	大宜味村饒波区	2005
52	大保誌 大保川の流れとともに	大保字誌編集委員会	大宜味村大保区	2006
53	大宜味字誌 鎮守の里	宮城長信	字大宜味区	2012
	【東村】			
54	Taira: An Okinawan Village (平良 - 沖縄の村)	Thomas Maretzki/Hatsumi Maretzki	John Wiley and Sons, Inc.	1966
55	沖縄の祭祀 - 東村民俗誌	渡邊欣雄	第一書房	1987
56	福地ダム裁判闘争史			2003
57	川田誌 - 第 1 巻	字誌編集委員会	川田区	2004
	【名護市】			
58	羽地村字親川郷土誌	平良盛吉・川上清栄	親川区	1962
59	饒平名郷土誌	仲宗根重吉	仲宗根重吉	1972
60	屋我地郷土誌	仲宗根重吉	仲宗根重吉	1975
61	呉我誌	呉我誌編集委員	呉我区	1976
62	郷友 - 創立 20 周年・25 周年記念号	同編集委員会	久志みどり会	1977
63	幸喜部落の歩み	津波仁榮	幸喜区	1978
64	勝山誌	勝山誌編集委員会	勝山誌編集委員会	1978
65	まーずの話あれこれ	仲宗根重吉	仲宗根重吉	1980
66	昔を語る	宮城岸清	宮城岸清	1981

軍用地料の「分収金制度」(6) (瀧本佳史・青木康容)

67	大阪羽地郷友会 50 周年記念誌	記念誌編集委員会	大阪羽地郷友会	1981
68	旧名護町産業行政小史 (昭和 15 年～42 年)	宮城岸清	宮城岸清	1982
69	わかりやすい兼久田門中のお話	兼久田門中先祖来歴研究会 (宮城盛雄・比嘉親平)	兼久田門中先祖来歴研究会	1982
70	かんでな誌	新城信一	仲尾区	1983
71	明治・大正・昭和時代における幸喜の世相史	宮城岸清	宮城岸清	1984
72	内原のあゆみ	内原のあゆみ編集委員会	内原区・内原公民館	1984
73	名護人の雑記帳	宮城盛雄	宮城盛雄	1987
74	安和の語りぐさ	仲村栄正	仲村栄正	1987
75	組踊・矢蔵の比屋	屋部字誌編集委員会	屋部字誌編集委員会	1987
76	屋我地の今と昔	名護市立屋我地小学校	創立百周年記念事業期成会	1987
77	宮里沿革のあらまし	神山祥男	宮里区	1988
78	稲嶺誌	稲嶺誌編集委員会	稲嶺区	1988
79	屋部のウシヤキ	名護博物館	名護博物館	1989
80	仲尾次誌	仲尾次誌編集委員会	仲尾次区	1989
81	ふるさと辺野古を語る	比嘉ムト	比嘉ムト	1989
82	ヒラタチ 字誌だより 3号	天仁屋字誌づくり委員会		1990
83	くすく育英会 35 年の歩み	城育英会	城育英会	1991
84	隣組結成 15 周年記念誌	名護市大東 7 班・熱田原隣組	熱田原隣組	1991
85	仲尾次豊年踊 100 年祭記念誌	仲尾次豊年踊100年祭記念実行委員会	仲尾次区	1991
86	伊差川誌	伊差川誌編集委員会	伊差川区	1991
87	国頭屋の祖先と辺野古の行事	比嘉ムト	比嘉ムト	1991
88	大中誌	大中誌編集委員会	大中誌編集委員会 (大中公民館)	1994
89	仲尾次向上会戦後 50 周年記念誌	戦後 50 周年記念誌	仲尾次向上会	1995
90	古我知の手さぐり記	松川源傑	松川源傑	1995
91	大南区創立 50 周年記念誌	大南区	大南区	1996
92	安和のウシデアク	仲村繁一	仲村繁一	1996
93	屋部の八月踊り	屋部字誌編集委員会	屋部の八月踊り 130 周年記念祭実行委員会	1996
94	山本川恒翁昔ばなし (トーカー記念)	遠藤庄治・比嘉久ほか	嘉数絹江・山本康二ほか	1996
95	ゴバン型集落 - 済井出村の源流	古堅哲	古堅哲	1996
96	我が生まれ島・久志小今昔物語	島袋正二郎	沖縄教育出版	1996
97	古我知誌	古我知誌編集委員会	古我知誌編集委員会	1998
98	久志誌	字誌編集委員会	久志区公民館	1998
99	辺野古誌	辺野古誌編集委員会	辺野古区事務所	1998
100	ひぬく誌			1998
101	我部祖河誌	我部祖河誌編集委員会	我部祖河区	1999
102	嘉陽誌	嘉陽誌編集委員会	嘉陽区事務所	1999
103	東江誌	東江誌編集委員会	東江区	2001
104	写真集 屋部 - ひとびととくらし	屋部字誌編集委員会	屋部区	2002
105	屋部ひとびととくらし	屋部字誌編集委員会	屋部区	2002
106	時は過ぎて日々甦る	宮城義勝	宮城義勝	2002
107	大北誌	大北誌編集委員会	大北区	2003
108	安和のルーツを尋ねて	仲村繁一	仲村繁一	2003
109	屋部ひとびととくらし 写真集	屋部字誌編集委員会	屋部区	2003
110	宮里の沿革	宮里字誌編集委員会	宮里公民館	2004
111	数久田字誌 轟 すくた	(数久田) 字誌編集委員会	数久田区	2007
112	手水の恵 許田字誌		名護市許田区	2007
113	豊原誌		名護市豊原	2007
114	田井等誌	字誌編集委員会	名護市田井等	2008
115	済井出誌	済井出誌編集委員会	済井出区	2008
116	川上誌 いちへきのムラ 【今帰仁村】	川上誌編集委員会	名護市川上区	2009
117	長浜	山内昌藤	山内昌藤	1980
118	まやーじくく	澤砥義啓	澤砥義啓	1984
119	しちやま - 沖縄県朝日農業賞受賞記念誌	沖縄県北部農業改良普及所	沖縄県北部農業改良普及所	1985
120	じゃな誌	じゃな誌編集委員会	謝名公民館	1987
121	字湧川誌	湧川誌編集委員会	湧川区	1987
122	越地 - 分字 50 周年記念	黒島直太	越地区	1988
123	崎山誌	崎山誌編集委員会	崎山公民館	1989
124	仲尾次誌	仲尾次誌編集委員会	仲尾次構造改善センター (仲尾次公民館)	1993
125	今泊誌	今泊誌編集委員会	今泊公民館	1994
126	与那嶺誌	与那嶺誌編集委員会	与那嶺公民館	1995
127	仲宗根誌	仲宗根誌編集委員会	仲宗根公民館	1996
128	今帰仁村婦人会 50 周年記念誌	同記念誌編集委員会	同記念事業実行委員会	2002
129	今帰仁村玉城区平良門中の古文書翻刻 【本部町】	比嘉ひとみ・崎原盛俊	平良栄正・恵美子	2002
130	上本部分村史			1948
131	伊豆味誌	兼次佐一	琉球史料研究会	1965
132	本部町字浦崎史	玉城西雄		1969
133	古代伝統の祭 - 具志堅のシニーク	新城徳裕	新城徳裕	1973
134	沖縄市在住具志堅郷友会創立二十周年記念誌	上間清英	沖縄市在住具志堅郷友会	1975
135	具志堅誌	仲里松吉	仲里哲次	1978
136	伊野波公民館落成記念誌	記念誌編集委員会	伊野波区	1978
137	水納島	水納島研究会	水納島研究会	1981

佛教大学社会学部論集 第60号 (2015年3月)

138	備瀬史	仲田栄松	備瀬区	1984
139	塩川-塩川会館45周年記念誌	同実行委員会	塩川区	1986
140	ふる里瀬底・1	内間直幸	内間直幸	1988
141	ふるさと雑感	大見恒貴	大見恒貴	1989
142	ふる里瀬底・2	内間直幸	内間直幸	1989
143	北里誌	北里誌編集委員会	北里区	1991
144	瀬底誌	瀬底誌編集委員会	瀬底区	1995
145	恋し本部-結成20周年記念誌	那覇市近郊在住本部町郷友会	那覇市近郊在住本部町郷友会	1995
146	並里区 歴史写真集		並里区事務所	2001
147	本部町具志堅の方言 【恩納村】	仲里長和	沖縄高速印刷	2002
148	組踊 忠臣身替		字恩納	1979
149	山田区児童体育館兼公民館建設記念誌		山田区	1981
150	山肥えて海光る	當山幸徳	當山幸徳	2000
151	とよむあふす-安富祖字誌	字誌とよむあふす編集委員会	字誌とよむあふす編集委員会	2001
152	瀬良垣の豊年祭	板谷徹	瀬良垣公民館	2002
153	写真集 道		恩納村恩納	2003
154	恩納村民の戦時物語 結成50周年記念	恩納遺族会		2003
155	花と水の里 喜瀬武原字誌		恩納村喜瀬武原	2005
156	恩納字誌 山・海・大地 古からの恵	〔恩納〕字誌編集発行事業スタッフ	字恩納自治会	2007
157	恩納字誌 山・海・大地 古からの恵 資料編	〔恩納〕字誌編集発行事業スタッフ	字恩納自治会	2007
158	南恩納字誌 恩納ノロとヨー鳥と山原船	南恩納字誌編集委員会	南恩納自治会	2010
159	南恩納誌	南恩納区字誌編集委員会	南恩納自治会	2010
160	いやしの里 名嘉真		恩納村 名嘉真	2012
161	南恩納誌・第1巻「議事録」 【宜野座村】	南恩納区字誌編集委員会	南恩納区公民館	
162	字松田沿革史-1994年以降	字松田教育振興委員会	松田教育振興会	1976
163	宜野座村松田の歴史	松田教育振興委員会	松田教育振興委員会	1977
164	惣慶誌	新里幸一	惣慶区	1978
165	城原区沿革誌	城原区行政委員会	城原区	1978
166	福山区沿革史	同編集委員会	福山区	1981
167	故里は語る-宜野座字誌	田端景俊	宜野座区	1982
168	宜野座字誌			1982
169	漢那誌	漢那誌編集委員会	漢那区	1984
170	城原区創立五十周年記念誌		城原区	1999
171	字宜野座組踊集	組踊編集委員会	宜野座区事務所	2001
172	松田区誌		松田地区公民館	2003
173	福山区誌		福山地区公民館	2005
174	漢那誌 続編 【金武村】		漢那区	2013
175	村の記録 (伊芸)	安富祖一博	伊芸区	1983
176	金武区誌-戦前新聞集成	金武区誌編集室	金武区事務所	1989
177	金武区誌-資料編 (上・下)	金武区誌編集委員会	金武区事務所	1994
178	並里区誌-資料編・戦前新聞集成	並里区誌編集室	並里区	1995
179	並里区誌-戦前編	並里区誌編集室	並里区	1998
180	金武区誌-戦争編	金武区誌編集委員会	金武区事務所	2002
181	金武区誌-戦前編 (上・下)		金武区	2003
182	屋嘉区誌 (戦前)		屋嘉区	2007
183	平和の祈り 伊芸区戦没者慰霊碑建立記念誌	金武町伊芸区戦没者慰霊碑建立委員会編	金武町伊芸区事務所	2008
184	伊芸誌		伊芸区	2013
185	記録集 伊芸区と米軍基地 (伊芸誌別冊) 【伊江村】		伊芸区	2013
186	伊江島考察史	伊是名牛助		1946
187	浮亀山物語-沖縄・伊江島開書私論	鳥袋和幸	滝林書房	1985
188	伊江村青年会創立40周年記念誌	同編集委員会	伊江村青年会	1991
189	伊江漁業協同組合60年の歩み	【伊江漁業協同組合60年の歩み】編集委員会	伊江漁業協同組合	1993
190	(伊江村郷友会) 創立50周年記念誌-麗峰 【伊平屋村】	伊江村郷友会	伊江村郷友会	2001
191	伊平屋列島文化誌	仲田清英	仲田清英	1974
192	伊平屋島民俗散歩	上江洲均	ひるぎ社	1986
193	前泊字誌 【伊是名村】			2002
194	字伊是名今昔誌	仲田清英	伊是名区	1985
195	かりゆしぬいせな村-伊是名公民館落成記念誌	西江弘孝	伊是名公民館建設期成会	1998
196	伊是名村勢理客誌	諸見武彦	末吉紀一	1999
197	伊是名方言	末吉武光	末吉武光	2002
198	はなぬ伊里・仲田字誌 【中部】【うるま市】		〔伊是名村字〕仲田区字誌刊行会	2005
199	伊波の地名			
200	宮城島郷土誌		宮城小学校	1936
201	郷土大田のあゆみ:大田公民館落成記念誌	大野顕	大野顕	1964
202	平安座 その名についての一考察	奥田良寛春	日本出版貿易株式会社	1969
203	赤野区60周年記念誌		赤野区記念誌編集委員会	1976
204	創立60周年記念誌-昆布			1976
205	津堅島の唐踊り	勝連町教育委員会	勝連村教育委員会	1979

軍用地料の「分収金制度」(6) (瀧本佳史・青木康容)

206	古希記念回想録 私とふるさと	中村榮春	中村榮春	1982
207	具志川市宇志林川自治会創立10周年記念誌	志林川区自治会創立十周年記念事業期成会	志林川区自治会創立十周年記念事業期成会	1983
208	創立10周年記念誌 - 具志川市新赤道自治会		新赤道自治会	1983
209	ひやむぎかなもり - 写真に見る平安座今昔 -	平安座今昔写真集編集委員会	平安座自治会	1984
210	平安座自治会館新築記念 故きを温ねて		平安座自治会	1985
211	歴史散歩 くしかわ	大野顕	大野顕	1989
212	イーター島 伊計島生活誌	中石清繁	中石清繁	1990
213	与勝の歴史散歩 ふなやれ・平安座	親川光繁	安里公認会計士事務所 公認会計士 安里清繁	1990
214	津堅島の記録	比嘉繁三郎	比嘉繁三郎	1990
215	ヤブチ式土器と屋慶名村の誕生 - 往古の行為論で学ぶ新興勝風土記 - (上・下)	仲地和雄・水野益継	與那城村陽明学研究会	1992
216	おもろ古謡にみる与勝	鳥袋善吉	同刊	1994
217	江洲区戦後五十年誌	江洲誌編集委員会	江洲区戦後五十年誌編集委員会	1995
218	『江洲区戦後五十年誌』付録写真集	江洲誌編集委員会	江洲区戦後五十年誌編集委員会	1995
219	平安名字誌	沖縄県中頭郡勝連町字平安名字誌編集委員会	平安名区	1997
220	解で変わろう！与勝のあゆみと古代文字	鳥袋善吉・吉浜節子	同刊	1998
221	平敷屋字誌	平敷屋字誌編集委員会	平敷屋区自治会	1998
222	結成15周年記念誌 (平敷屋Eイサー保存会)		平敷屋Eイサー保存会	1998
223	続与勝の歴史散歩 勝連城繁栄時代・平安座むらの誕生	親川光繁	合資会社吉田支配人 親川裕昭	2000
224	勝連町南風原字誌	沖縄県中頭郡勝連町字南風原字誌編集委員会	南風原公民館	2000
225	勝連町南風原字誌 南風原の発祥	字南風原字誌	南風原公民館	2000
226	勝連の新聞集成	徳村安信	徳村安信	2001
227	なあくすく字誌 【沖繩市】	なあくすく字誌をつくる会	宮城自治会	2005
228	山内自治会館記念誌		山内自治会	1976
229	あゆみ - 住吉自治会20周年記念誌	山内自治会	住吉自治会	1980
230	農業と生活 池原・登川・知花		中部農業改良普及所	1983
231	老友会二十周年記念誌		山内老友会	1984
232	宇久田郷友会		宇久田郷友会	1987
233	泡瀬誌	泡瀬復興期成会	泡瀬復興期成会	1988
234	越來美里の先人たち	沖縄市人物伝刊行会	沖縄市人物伝刊行会	1988
235	胡屋の今昔写真誌	胡屋字誌編集委員会	沖縄市字胡屋共有会	1991
236	美里誌	美里自治会	美里自治会	1993
237	胡屋誌	胡屋誌編集委員会	沖縄市胡屋共有会	1994
238	せせらぎ 沖縄市登川の方言辞典	平田嗣永	平田嗣永	1995
239	写真集「ふるさと泡瀬」	泡瀬復興期成会	泡瀬復興期成会	1997
240	古謝誌	古謝誌編集委員会	古謝自治会	1999
241	發 中原誌 よみがえる心の風景	なかばる 共栄会編		2000
242	上地誌	上地誌編集委員会	上地郷友会	2000
243	ふるさとの追憶	川上雄善	川上雄善	2002
244	桃山は消えた	比嘉栄一		2002
245	呉富士誌 基地に消えた屋取百年の轍	呉富士誌編集委員会	呉富士親交会	2004
246	泡瀬村創設百周年	泡瀬復興期成会編		2005
247	安慶田むら誌		安慶田むら郷友会	2006
248	大工廻誌 基地に消えた古里	大工廻字誌編集委員会	大工廻郷友会	2009
249	青那志誌 基地に消えた故郷	青那志誌編集委員会	青那志共栄会	2009
250	喜瀬の浦誌しらか社の栄え	喜瀬字誌編集委員会編		2009
251	室川誌	室川自治会編集委員会	室川自治会	2009
252	沖繩市 越來字誌 【宜野湾市】	越來郷友会	越來共有会	2010
253	シマの話 (爐邊叢書)	佐喜真興英	郷土研究社	1925
254	祝 普天間三区創立10周年記念誌	普天間三区自治会	普天間三区自治会	1973
255	新城区創立10周年記念誌		新城自治会	1973
256	野嵩三区創立10周年記念誌		野嵩自治会	1974
257	新城		新城郷友会	1979
258	ふるさと愛知	仲松弥詳	仲松弥詳	1980
259	創立20周年記念誌 (宜野湾市新城区自治会)		宜野湾市新城区自治会新城区公民館	1983
260	ぎのわん 字宜野湾郷友会誌	字宜野湾誌編集委員会	字宜野湾郷友会	1988
261	三十周年記念誌 普天間		普天間一区自治会長 福井武八	1994
262	新城誌 (新城郷友会誌)	新城郷友会誌編集事務局		2000
263	上大謝名自治会創立二十周年記念誌	創立二十周年記念事業実行委員会	宜野湾市上大謝名自治会	2000
264	真栄原団地会設立30周年記念誌	真栄原団地会	真栄原団地会	2000
265	宜野湾市伊佐区婦人会 創立55周年記念誌	宜野湾市伊佐区婦人会記念誌編集委員	宜野湾市伊佐区婦人会創立55周年記念事業実行委員会 宜野湾市伊佐区自治会公民館内	2002
266	写真集じのーんどうーむら	写真集じのーんどうーむら編集委員会	字宜野湾郷友会	2009
267	伊佐誌	宜野湾市伊佐		2011
268	神山誌 【読谷村】	宜野湾市神山		2012
269	記念誌		読谷村楚辺	1962

佛教大学社会学部論集 第60号 (2015年3月)

270	波平の歩み	新垣秀吉	波平公民館	1969
271	渡慶次の歩み	山城吾助		1971
272	残波の里「字座誌」	新城平永(代表)	字座公民館	1974
273	都屋誌	渡久山朝章		1978
274	字座老人クラブ創立15周年記念誌	百の会編集委員	字座老人クラブ百(もも)の会	1979
275	八重山のすびんちゅ(楚辺誌資料集・17)	比嘉豊光・村山友江	読谷村字楚辺誌編集室	1990
276	アカノコ(楚辺誌資料集・20)	比嘉豊光・村山友江	字楚辺誌編集室	1990
277	楚辺人(楚辺誌資料集・20)	比嘉豊光・村山友江	字楚辺誌編集室	1992
278	字楚辺誌「戦争編」	字楚辺誌編集委員会	字楚辺公民館	1992
279	楚辺のアシビ-芸能シンポジウム 今、ムラアシビをみつめる-(字誌資料集・21)	比嘉豊光編	字楚辺誌編集室	1993
280	わが生り島比謝村 字誌資料	石嶺伝夫		1993
281	比謝紅誌	比謝紅誌編集委員会	比謝紅公民館	1995
282	戦後五十周年記念誌 遙なり激動の少年期		楚邊国民学校1940~1945	1996
283	喜名誌	喜名誌編集委員会	喜名公民館	1998
284	「都屋誌」-字創立50周年	読谷村字都屋字誌編集委員会	読谷村字都屋公民館	1998
285	字楚辺誌「民俗編」	字楚辺誌編集委員会・池原昌徳委員長	字楚辺公民館	1999
286	楚辺誌 民俗編 写真 楚辺の風景(1)	字楚辺誌編集委員会		1999
287	大湾誌 和睦	字大湾字誌	字大湾郷友会	2004
288	字誌 高志保(上・下)	高志保字誌編集委員会		2007
289	古堅誌	字誌編集委員会	字古堅区	2007
290	続 渡慶次の歩み 下巻	渡慶次字誌編集委員会	渡慶次区渡慶次公民館	2010
291	親志誌 挨拶	親志字誌編集委員会	親志字誌編集委員会	2012
292	座喜味 ざちみぬ ちてーばなし-読谷市座喜味の伝え話-	読谷ゆうがの会	読谷村文化遺産魅力再発見事業実行委員会	2012
293	伊良皆字誌 【嘉手納町】	伊良皆字誌編集委員会	伊良皆字誌編集委員会	2012
294	字屋良文化史	伊波孝真		1977
295	嘉手納町屋良誌	屋良誌編集委員会	字屋良共栄会	1992
296	屋良誌		嘉手納町屋良	1992
297	嘉手納町水釜史	水釜史編集委員会	水釜向上会	1996
298	千原誌		嘉手納町千原	2001
299	字野里誌		嘉手納町野里	2004
300	国直誌		嘉手納町国直	2005
301	嘉手納大通り誌 【北谷町】	嘉手納大通り誌編集委員会	旧嘉手納大通り郷友会	2006
302	字誌・北谷	金城至盛	北谷区	1986
303	栄口区10年のあゆみ	栄口区	栄口区	1990
304	上勢頭誌 上巻 通史編(Ⅰ)	上勢頭誌編集委員会	旧字上勢頭郷友会	1997
305	上勢頭誌 中巻 通史編(Ⅱ)	上勢頭誌編集委員会	旧字上勢頭郷友会	1993
306	上勢頭誌 下巻 長寿・人物編	上勢頭誌編集委員会	旧字上勢頭郷友会	1998
307	下勢頭誌 戦前編	下勢頭誌編集委員会	下勢頭郷友会	2001
308	旧字伊礼郷友会誌		伊礼	2004
309	下勢頭誌 戦後編	下勢頭誌編集委員会	下勢頭郷友会	2005
310	軽便鉄道のあった故郷-北谷村桑江又前郷友会		北谷町桑江又前	2007
311	平安山又上誌 【北中城村】		北谷町平安山又上	2010
312	大城の今昔	仲村栄春	仲村栄春	1980
313	平安山又上誌	北中城村平安山又上誌編集委員会編	平安山又上郷友会	2010
314	萩道字誌	萩道字誌編集委員会	萩道自治会	2010
315	喜捨場誌 【中城村】		喜捨場	2013
316	久場士地区画整理事業竣工記念誌	久場士地区画整理事業竣工記念誌編集委員会	中城村久場士地区画整理組合	1991
317	終戦60周年記念誌 平和の風	中城村造族会記念誌編集委員会編		2006
318	津覇誌 五百年の歴史を刻む 【南部】【浦添市】	津覇自治会		2008
319	字誌・大平 祖国復帰記念出版		浦添市字大平(字誌編集委員会)	1972
320	茶山沿革誌		茶山自治会	1974
321	前田の民俗(浦添の歴史資料シリーズⅢ)		浦添市企画調整室市史担当事務局	1980
322	当山公民館落成記念			1980
323	落成祝記念		牧港公民館	1981
324	内間字誌	内間字誌編集委員会	内間自治会	1981
325	内間公民館落成記念誌		浦添市字内間自治会	1984
326	仲西村の沿革誌	外間太和	外間太和	1989
327	浅野浦自治会創立15周年記念誌	浅野浦自治会創立15周年記念誌編集委員会	浅野浦自治会	1991
328	字誌なかま	字仲間誌編集委員会	浦添市字仲間自治会	1991
329	浦西自治会創立10周年記念誌	浦西自治会創立10周年記念誌編集委員会	浦西自治会	1993
330	牧港字誌	字誌編集委員会	浦添市牧港自治会	1995
331	小湾字誌-沖繩戦・米占領下で失われた集落の復元	法政大学沖繩文化研究所・小湾字誌調査委員会	浦添市小湾字誌編集委員会	1995
332	字誌たくし	沢砥字誌編集委員会	沢砥字誌編集委員会	1996
333	茶山自治会二十五周年記念誌		茶山自治会二十五周年記念誌編集委員会	1997
334	西原婦人会創立五〇周年記念誌		浦添市西原婦人会	1997

軍用地料の「分収金制度」(6) (瀧本佳史・青木康容)

335	内間婦人会 50 周年記念誌 婦人会のあゆみ		浦添市内間婦人会	1998
336	浦添市城間婦人会創立 50 周年記念誌 城間うないのあしあと	城間婦人会創立 50 周年記念事業実行委員会記念誌部		1998
337	城間の昔ばなし むかし城間シリーズ 2	城間字誌編集委員会	浦添市城間自治会	1999
338	城間字誌 第一巻「城間の風景」	城間字誌編集委員会	城間自治会	2000
339	浦添グリーンハイツ公民館(学習等供用施設)落成記念誌	記念誌編集委員会	浦添グリーンハイツ自治会	2002
340	小湾写真集よみがえる小湾集落・the KOWAN photograph 1912-2003	加藤久子(代表)	小湾字誌編集委員会	2003
341	城間字誌 第二巻「城間の風景」	城間字誌編集委員会	城間自治会	2003
342	浦添市当山区成立八十八周年記念誌		当山	2005
343	記念誌仲西		仲西	2005
344	字誌経塚		経塚	2006
345	小湾戦後記録集 小湾字誌		小湾	2006
346	小湾字誌(戦中・戦後編) 小湾部落の建設とあゆみ	加藤久子編集代表 小湾字誌調査・編集委員会		2008
347	字誌 なーぐすく		宮城	2012
348	屋富祖戦後写真集 【那覇市】		屋富祖	2012
349	沖縄の歓楽郷 辻の今昔	来和雀	久志助善	1934
350	鏡水 創立 70 周年記念誌		鏡水自治会	1973
351	泊誌	とまり会	とまり会	1974
352	首里の日々	末吉安久	首里奨学母の会	1978
353	若松通り会 20 年のあゆみ			1978
354	特別行政区区域みなど村のあゆみ(資料編) - 1947・5~1950・7-	盛根良一	盛根良一	1982
355	大嶺の今昔		字大嶺向上会・字大嶺自治会	1983
356	鏡水八〇周年記念誌	鏡水自治会	鏡水自治会	1983
357	三原のあゆみ	三原自治会		1984
358	上之屋誌		上之屋互助会	1989
359	久米村の民俗	具志堅以徳	社団法人久米崇聖会	1989
360	わったあ兼久	知念良雄	知念良雄	1990
361	泊前島町誌	真喜志駿	前島町誌刊行委員会	1991
362	小緑村誌	小緑村誌発刊委員会	小緑村誌発刊委員会	1992
363	那覇市安次嶺の村踊り	なし	那覇市安次嶺自治会?	1993?
364	字上間誌 公民館落成十周年記念		上間自治会	1992
365	首里昔語り史跡マップ	首里昔語り地図編集委員会・アトリエ・キラ、ヴァリエ	那覇市首里自治会長連絡協議会会長 浜元朝起	1993
366	おろくの歴史を訪ねる講座(平成 3・4 年度成人講座収録)	那覇市小緑南公民館	那覇市小緑南公民館	1993
367	久米村 - 歴史と人物 -	池宮正治・小渡清孝・田名真之	ひるぎ社	1993
368	久米村六〇〇年記念事業期成会報告書	久米村六〇〇年記念事業期成会	久米村六〇〇年記念事業期成会	1993
369	前島町のアルバム	前島暁生会	前島暁生会	1993
370	写真で見る旧泊崇元寺町高橋町前島町の変遷		とまり会	1996
371	首里城周辺史跡マップ(首里城普及書)	財団法人海洋博記念公園管理財団	財団法人海洋博記念公園管理財団	1997
372	赤田みるく 復興の記録	赤田のみるくウンケー実行委員会	赤田のみるくウンケー実行委員会	2000
373	識名誌	識名誌編集委員会	那覇市識名自治会	2000
374	宮城誌	那覇市宮城自治会		2006
375	終戦 60 周年記念誌 まーち	真和志遺族会終戦 60 周年記念誌編集委員会編	真和志遺族会	2008
376	高良の字誌	高良字誌編集委員会	高良友友会	2008
377	大嶺の今昔		大嶺	2008
378	松川字誌 松風泰然のもとで	松川字誌編集委員会	松川向上会	2010
379	上間誌	上間誌編集委員会編	上間自治会	2010
380	天久誌		天久資産保存会	2010
381	真嘉比字誌 【豊見城市】	真嘉比字誌編集委員会	真嘉比自治会	2014
382	真玉橋の聖地と祭祀	財団法人公共用地補償機構	財団法人公共用地補償機構	1991
383	豊西自治会創立二十周年記念誌 豊西	豊西自治会	豊西自治会	1995
384	豊見城ニュータウン十周年記念誌 豊見城ニュータウン		豊見城ニュータウン自治会	1997
385	高安誌 上巻	字高安誌編集委員会	字高安誌編集委員会	1999
386	上田誌	上田誌編集委員会	上田誌編集委員会	2001
387	保栄茂ぬ字史	豊見城村字保栄茂字史編集委員会	豊見城村字保栄茂自治会	2001
388	与根字誌	与根字誌編集委員会	与根自治会	2008
389	豊見城の字誌 【糸満市】	(豊見城市) 字誌編集委員会	字豊見城自治会	2012
390	郷土史高嶺村	神谷欣三	沖縄県島尻郡高嶺村	1934
391	新垣部落誌	前田正敏	糸満市役所	1952
392	与座泉水 - 高嶺間切と座村誌 -		南部農業改良普及所	1982
393	農家の暮らし 大正・昭和初期の農村	前田正敏	前田正敏	1985
394	のどかな里 大正・昭和初期の沖縄	前田正敏	前田正敏	1988
395	なあくすくむら誌(糸満市字名城誌)	なあくすくむら誌編集委員会	糸満市名城区長 新垣政次	1988
396	糸満アンマー - 海人の妻たちの労働と生活 -	加藤久子	ひるぎ社	1990
397	米須字誌	米須字誌編集委員会	字米須(米須公民館)	1992
398	古代琉球王朝発祥地 ふるさとと座村の歴史散歩	伊敷賢	御殿腹門中宗家「御殿家」	2000

佛教大学社会学部論集 第 60 号 (2015 年 3 月)

399	大里字誌	大里字誌編集委員会	字大里公民館	2009
400	喜屋武字誌 【八重瀬町】	喜屋武字誌編集委員会	喜屋武自治会	2013
401	中(ママ)座八煙 - 具志頭村字仲座の農家生活誌 -	?	沖縄県南部農業改良普及所	1983
402	創立四十周年記念誌	當銘直光	字東風平長寿会	1988
403	二十五年期記念誌 友寄獅子舞由来記 - とうむしぬシーン	翔南企画	友寄文化委員会	1997
404	むらやー落成記念 記念誌	玻名城公民館落成記念誌	玻名城公民館落成記念誌編集委員会	2001
405	字誌 外間	字誌外間編集委員会	東風平町	2004
406	富盛字誌	富盛字誌編集委員会	東風平町富盛	2004
407	ていみぐら	当銘字誌編集委員会	字当銘公民館	2005
408	富盛の唐人行列 九州民俗芸能大会参加記念誌 【南城市】	?	「唐人行列」九州派遣実行委員会	?
409	愛知区の歴史 第一巻		玉城村字愛知区	1977
410	喜良原 50 周年記念集			1980
411	沖縄大里村字古堅誌	与那堅亀	与那堅亀	1980
412	大城集落センター落成記念誌		大城農村振興会	1984
413	玉城村前川誌	玉城村前川誌編集委員会	玉城村前川誌編集委員会	1986
414	銭又区五十一年の歩み (字創立記念誌)	五十周年記念誌編集委員会	五十周年記念誌編集委員会	1989
415	ミントン 仲村渠祭祀資料 NO 1	玉城村字仲村渠祭祀委員会	玉城村字仲村渠	1990
416	玉城村富里誌	中山俊彦		1992
417	つきしろの歩み 「つきしろの街」二十周年記念誌	つきしろの歩み編集委員会	つきしろの街自治会	1999
418	字誌 新里	新里字誌編集委員会	佐敷町字新里区	2000
419	古堅地区集落地域整備事業記念誌	記念誌編集部会	記念誌編集部会 (沖縄県島尻郡大里村字古堅)	2001
420	城むらといやしりの里づくり 緑と花と文化の香る城むらといやしの里 西原		南部農業改良普及センター	2001
421	玉城村船越誌	船越誌編集委員会	玉城村船越公民館	2002
422	我慢我慢 (やーさぬひーさぬさっびさぬ) 学童集団疎開	佐敷町手登根宮水疎開者相思会編		2005
423	南城市玉城愛地誌	玉城愛地誌編集委員会		2007
424	南城市玉城當山誌	當山誌編集委員会編		2008
425	奥武島誌 (南城市)	字誌編集委員会編	奥武区自治会	2011
426	糸数字誌	糸数字誌編集委員会	糸数公民館	2012
427	津波古字誌 【与那原町】	津波古字誌編集委員会	津波古字誌自治会	2012
428	与那原町大綱史資料集		与那原町商工会青年部	1983
429	与那原町当添史 【南風原町】	仲里全良		1986
430	ふる里津嘉山	大城辰雄		1984
431	喜屋武の移りかわり			1985
432	宮平誌	宮平誌編集委員会	南風原町字宮平公民館	1986
433	公民館創立 20 周年記念 ヒャーユイ! で村おこし!	南風原町立津嘉山公民館創立 20 周年記念実行委員会	南風原町立津嘉山公民館	2001
434	大名誌	大名誌編集委員会	大名誌編集委員会	2001
435	与那覇誌 うさんしー	与那覇字史編集委員会	与那覇自治会	2004
436	兼城字誌		南風原町字兼城	2006
437	字誌 宮城 【離島・先島】【久米島町】	字誌宮城編集委員会	字宮城	2009
438	儀間部落誌	宮平契福		1971
439	仲地の今昔	山城昌輝	字仲地郷友会	1976
440	久米島具志川村具志川部落史	宮里正光	具志川村字具志川	1979
441	昭和 56 年度農村高齢者活動促進特別事業 ながたきまーち - 具志川村の食生活誌 -		南部農業改良普及所	1982
442	在沖久米島儀間郷友会創立 10 周年記念誌	平田清・波平憲一郎・佐久川盛昭・与 歴実・新里信夫	儀間郷友会	1984
443	大原移住百周年記念誌			1986
444	じまむら	宮城幸吉		1989
445	字具志川移転百周年記念誌	字具志川移転百周年記念誌編集委員会	沖縄県島尻郡具志川村字具志川移 転百周年記念事業実行委員会	1995
446	比屋定字誌	沖縄本島在住比屋定郷友会	沖縄本島在住比屋定郷友会	1996
447	銭田誌	銭田誌編集委員会	仲里村銭田郷友会	1996
448	西銘誌	久米島西銘誌編集委員会		2003
449	久米島の戦争	徳田球美子、島袋由美子編著	久米島の戦争を記録する会	2010
450	具志川字誌 写真集 招けゆぐひちゃー 別巻	具志川字誌編集委員会	具志川公民館	2011
451	具志川字誌 上巻	具志川字誌編集委員会	具志川公民館	2012
452	具志川字誌 下巻	具志川字誌編集委員会	具志川公民館	2013
453	具志川字誌 資料編 【座間味村】	具志川字誌編集委員会	具志川公民館	2013
454	琉球國慶良間嶋座間味邑歴史	宮平文雄		1909
455	慶良間諸島の文献資料集 - 沖縄慶良間諸島における 言語・文化・社会の総合的研究 - 【粟国村】	沖縄慶良間調査委員会	沖縄慶良間調査委員会	1989
456	黎明期の粟国	伊佐三郎	球陽堂書房	1979
457	粟国村誌	粟国村村史編纂委員	粟国村	1984

軍用地料の「分収金制度」(6) (瀧本佳史・青木康容)

458	いにしえを偲ぶ むんじゅる節歌碑建立記念誌 【南大東村】	むんじゅる節歌碑建立記念誌編集委員会	むんじゅる節歌碑建立期成会	2001
459	ウパアガリ島史－糖業資本の基地となった南の孤島－	佐々木辰夫	『新日本文学』(September 230)	1966
460	南ボロデノ島 南大東島の開拓と歴史	勇知之	葦書房	1974
461	大東島開拓物語 上巻(緑の筍豆本第363集)	川出博章	蘭繁之	1999
462	大東島開拓物語 下巻(緑の筍豆本第364集) 【宮古島市】	川出博章	蘭繁之	1999
463	宮古島郷土誌	宮古教育部会	大野商店	1937
464	宮古島世那覇邑誌	上地盛光		1969
465	宮古島庶民史	稲村賢敷	三一書房	1972
466	沖繩池間島民俗誌	野口武徳	未來社	1972
467	下里添上区部落分字80周年記念誌		下里添上区	1972
468	西原創立百周年記念誌	西原創立百周年記念誌編集委員会	西原創立百周年記念誌編集委員会	1974
469	東底原郷土史	砂川泰信	砂川泰信	1974
470	宮古島与那覇邑誌－その伝説・民俗及び歴史	上地盛光	新星図書	1974
471	宮古の民俗文化	下地馨	琉球出版会	1975
472	新城郷友会創立10周年記念誌	新城郷友会	新城郷友会	1975
473	宮古島郷土史考	砂川明芳	砂川明芳	1976
474	高野部落15年の歩み			1976
475	吉野創立50周年記念誌		吉野区	1978
476	狩俣民俗史	上地太郎		1980
477	池間島のマークヅツ	池間島民謡保存会	池間島民謡保存会	1981
478	池間島の民謡	前泊徳正	HOST・M企画	1982
479	保良郷友会誌－15周年記念誌	在沖保良郷友会	在沖保良郷友会	1983
480	池間島史誌	大井浩太郎	池間島史誌発行委員会	1984
481	比嘉大泉(ウプカー)－農村高齢者生活誌	宮古農業改良普及所	宮古農業改良普及所	1984
482	比嘉部落沿革誌(第1巻)	沿革誌編集委員会	比嘉部落	1985
483	地盛－在沖地盛郷友会誌	在沖地盛郷友会	在沖地盛郷友会	1986
484	ういづー郷里・郷友を結ぶ		上地郷友会	1987
485	郷里・郷友を結ぶ『ういづ』	洲鎌良平	上地郷友会	1987
486	つむかぎ	川上哲也	川上哲也	1988
487	分字35周年記念誌大嶺	記念誌刊行委員会	砂川松栄	1989
488	昭和初期よりの保良風俗史	松川寛良	松川寛良(出版協力:在沖保良郷友会)	1992
489	在沖砂川郷友会結成25周年記念誌	25周年記念誌実行委員会	平良盛寿	1992
490	宮古島保良の土俗信仰	松川寛良	松川寛良	1995
491	在沖西辺郷友会結成30周年記念誌	記念事業期成会・編集委員会	在沖西辺郷友会	1996
492	宮古のフォークロア	ニコライ・A・ネフスキー	砂子屋書房	1998
493	在沖狩俣郷友会30周年記念誌	在沖狩俣郷友会30周年記念事業期成会	在沖狩俣郷友会30周年記念事業期成会	1999
	【多良間村】			
494	在沖多良間郷友会十周年記念誌	立津春公	立津春公	1966
495	多良間の民俗	琉球大学沖縄文化研究所	琉球大学沖縄文化研究所	1969
496	村誌たらま島	多良間村誌編集委員会	多良間村長下地朝憲	1973
497	在沖多良間郷友会20周年記念誌 ふるさと	在沖多良間郷友会	在沖多良間郷友会	1977
498	ふくぎの里－多良間村高齢者生活誌－	宮古農業改良普及所	宮古農業改良普及所	1982
499	在沖多良間郷友会30周年記念誌 大十字路	仲程正吉	宮里整	1988
	【石垣市】			
500	川平村郷土誌	川平部落会	川平部落会	1950
501	米原十周年記念誌－私たちの米原	米原部落会	米原部落会	1962
502	(米原)入植20周年記念誌		米原公民館	1972
503	八重山生活誌	宮城文	宮城文	1972
504	登野城村の歴史と民俗	牧野清	牧野清	1975
505	バガシマホームヌ歴史	上間貞俊・小底致市	上間貞俊・小底致市	1975
506	大浜の古謡集(ジラバ・ユンタ)	大浜古謡同好会	大浜古謡同好会	1976
507	大浜村民俗誌	大浜老人クラブ長寿会		1976
508	川平村の歴史	川平村の歴史編集委員会	川平公民館	1976
509	マラリアとのたたかい	黒島直規		1976
510	白保－八重山白保村落調査報告－	琉球大学社会人類学研究会	根元書房	1977
511	八重山大浜村の郷土誌	上間貞俊・小底致市	上間貞俊・小底致市	1977
512	宮良村・山崎御嶽	山崎御嶽沿革史編集委員会	山崎御嶽沿革史編集委員会	1977
513	白保村歴史と民俗	白保中学校郷土歴史クラブ	白保中学校郷土歴史クラブ	1978
514	白保村歴史と民俗－第2集－	白保中学校郷土歴史クラブ	白保中学校郷土歴史クラブ	1979
515	宮良村古謡誌	宮良村古謡保存会	宮良村古謡保存会	1979
516	崎枝の歩み			1979
517	星野入植30周年記念誌		星野区	1980
518	開拓－星野部落30年のあゆみ	山口忠次郎	山口忠次郎	1980
519	大浜農村生活誌	大浜農村生活誌編集委員会	大浜農村生活誌編集委員会	1982
520	土と緑と太陽と－於茂登部落開拓25年誌	於茂登部落会	於茂登部落会	1982
521	伊野田部落入植30周年記念誌	入植30周年記念誌編集委員会	入植30周年記念事業期成会	1983
522	大里部落入植30周年記念誌	大里部落入植30周年記念事業期成会	大里部落入植30周年記念事業期成会	1983
523	真栄里公民館の歩み	真栄里公民館編集委員 山田善照・細工忠郎・仲山忠亨	真栄里公民館	1984
524	老いて学べば－竹原孫恭遺稿集－	竹原孫恭	竹原房	1984
525	石垣村古謡集・第1集	石垣字会古謡編集委員会	石垣字会	1985

佛教大学社会学部論集 第60号 (2015年3月)

526	明石入植 30 周年記念誌 - 土と共に -	記念誌編集委員会	入植 30 周年記念事業期成会	1985
527	ふる里の土 - 石垣島の農史的自伝	宮良高司・宮良高弘	宮良徹	1985
528	宮良村誌	宮良村誌編集委員会	宮良公民館	1986
529	平得公民館建設記念誌	平得公民館建設記念誌編集委員会	平得公民館	1986
530	平野入植 30 周年記念誌	記念誌編集委員会	平野入植 30 周年記念事業期成会	1987
531	(新栄町自治会) みちしるべ - 創立 10 周年記念誌	記念誌編集委員会	新栄町自治会	1988
532	サンゴ礁の渚を遊ぶ - 石垣島川平湾 -	西平守孝	ひるぎ社	1988
533	伊原間村逸話集	上里善孝	在沖伊原間郷友会	1990
534	牧畜人生八十八年白保に生きる	宮良松米寿記念誌編集委員会	宮良松米寿記念誌編集委員会	1990
535	写真集 白保	中村征夫	情報センター出版局	1990
536	伊原間小学校史概説	上里善孝	在沖伊原間郷友会	1991
537	大川公民館落成記念誌・むゆる	大川公民館建設期成会	大川公民館建設期成会	1991
538	川原入植 50 周年記念誌	記念誌編集委員会	川原入植 50 周年記念事業期成会	1991
539	登野城村古謡集 (第 1 集)	石垣繁	登野城ユンタ保存会	1992
540	伊原間村誌	伊原間公民館	前上里栄吉	1993
541	白保村風土記 - 逸事・逸話の史実 -	崎原久	白保村風土記刊行会	1994
542	嵩田 - 50 年のあゆみ -	嵩田公民館記念誌編集委員会	嵩田公民館記念誌編集委員会	1996
543	宮良郷友会結成 30 周年記念誌 - メーラの心を心として歩んだ 30 年の記録 新たなる出発に向けて -	宮良郷友会	宮良郷友会	1997
544	設立 40 周年記念誌大浜アカハチ会	記念事業実行委員会・編集委員会	大浜アカハチ会	1998
545	白保 - 歴史・民俗散策 - 白保とその関連地域 -	崎原恒新		1999
546	石垣邑旗頭記	石垣字誌編集委員会	石垣字会	2000
547	川平村出身の仲間満慶山一族たち - 嘉善姓一門と憲章姓一門の人びと	大浜永亘	新島文化研究所	2001
548	大浜村誌	大浜村誌編集委員会	大浜公民館	2001
549	(大浜老人クラブ長寿会) 創立 50 周年記念誌 【竹富町】	同編集委員会	大浜老人クラブ長寿会	
550	石垣西塘会々史	石垣西塘会編集委員会	石垣西塘会	1964
551	黒島民謡集	黒島民俗芸能保存会	黒島民俗芸能保存会	1968
552	黒島史	知念政範	知念政範	1970
553	竹富島誌	上勢頭亨・山城善三	竹富公民館	1971
554	蠟燭の芥 - 竹富島の真髄を求めて -	崎山毅	綿友堂写植	1972
555	おきなわのふるさと竹富島	上勢頭亨・山城善三	竹富公民館	1972
556	小濱島誌 - 心のふるさと -	山城浩	小浜郷友	1972
557	波照間島民俗誌	宮良高弘	木耳社	1972
558	竹富島の土俗	大真太郎	日本ジャーナリズム出版社	1974
559	西表島の伝説	那根亨	那根亨	1974
560	竹富島の種子取祭	竹富島民俗芸能保存会	竹富島民俗芸能保存会	1975
561	たけとみ - 東京竹富郷友会創立五十周年記念誌	東京竹富郷友会	東京竹富郷友会	1975
562	小浜島民謡集 - 小学校 80 周年中学校 25 周年創立記念誌 -	小浜島民謡編集委員会	小浜島民謡編集委員会	1975
563	石垣竹富郷友会史 - 創立 30 周年記念誌 -	30 周年記念史編集委員会	石垣竹富郷友会	1976
564	竹富島仲筋村の芸能	玉城憲文	オリジナル企画	1976
565	竹富島の民家と集落 - 景観保全と観光活動に関する報告	観光資源保護財団	観光資源保護財団	1976
566	西表炭坑概史	三木健	三栄社	1976
567	新城島 (パナリ)	安里武信	安里武信	1976
568	竹富島種子取祭国立劇場公演記念誌	竹富島民俗芸能保存会	竹富公民館	1977
569	開拓 25 周年記念 大富開拓記念史	25 周年記念史編集委員会	大富公民館	1977
570	黒島郷土民俗誌	喜舎場永珣	沖縄タイムス社	1977
571	波照間島	加屋本正一	加屋本正一	1977
572	八重山竹富町富島のわらべ唄	沖繩伝統芸能資料館	沖繩伝統芸能資料館	1979
573	石垣仲筋会創立 15 周年記念誌	石垣仲筋会	石垣仲筋会	1979
574	西表島祖納・星立の節祭の芸能	西表民俗芸能保存会	西表民俗芸能保存会	1979
575	増補改訂・西表炭坑概史	三木健	三栄社	1979
576	西表島のマラリア撲滅史	那根亨		1979
577	黒島民謡工四	玉代勢泰興	玉代勢泰興	1979
578	西表島のむかし話	星勲	ひるぎ社	1980
579	西表炭坑覚書	佐藤金市	ひるぎ書房	1980
580	西表島の民俗	星勲	友古堂書店	1981
581	開書 西表炭坑	三木健	三一書房	1982
582	西表島の村落と方言	星勲	友古堂書店	1982
583	波照間島のムシャーマ - 南国の豊年祈願と祖先供養の祭典 -	ムシャーマ編集委員会	波照間民俗芸能保存会	1982
584	西表炭坑概史	三木健	ひるぎ社	1983
585	民衆史を掘る - 西表炭坑紀行	三木健	本邦書籍	1983
586	南島流転 - 西表炭坑の生活 -	佐藤金市・三木健	松本タイプ出版部	1983
587	(豊原部落) 開拓 30 年史	記念誌編集委員会	豊原部落入植 30 周年記念事業期成会	1983
588	鳩間島誌 - 沖縄在鳩間郷友会十五周年記念誌	沖縄在鳩間郷友会	沖縄在鳩間郷友会	1983
589	鳩間島民俗芸能の夕べ - 郷友会結成 15 周年記念事業 (第 1 回)	沖縄在鳩間郷友会	沖縄在鳩間郷友会	1983
590	島分け - 沖縄鳩間島哀史	森口豁	マルジュ社	1983
591	もうひとつの沖縄戦 - マラリア地獄の波照間島	石原ゼミナール・戦争体験記録研究会	ひるぎ社	1983
592	竹富島古謡誌 - 古代文化の源流を訪ねて -	本庄正佳	竹富島古謡研究会	1984

軍用地料の「分収金制度」(6) (瀧本佳史・青木康容)

593	竹富島・小浜島の昔話	狩俣恵一・福田晃・真下厚・仲盛長 秀・花城正美	同朋舎出版	1984
594	昭和の竹富	大山正夫	大山正夫	1985
595	竹富島いまむかし	辻弘	辻理容所	1985
596	西表炭坑資料集成	三木健	本邦書籍	1985
597	子乞いー八重山・鳩間島生活誌ー	森口監	マルジュ社	1985
598	HATERUMA – socio-religious aspects of a South-Ryukyuan island culture –	C. OUWEHAND	Leiden E. J. BRILL	1985
599	写真集・西表炭坑	三木健	ひるぎ社	1986
600	わが故郷アントゥリーー西表・網取村の民俗と古謡ー	山田武男著、安浜遊地・安浜貴子編	ひるぎ社	1986
601	増補改訂・西表炭坑概史	三木健	ひるぎ社	1987
602	黒島誌	運道武三	運道武三	1988
603	新城下地島の節祭ジラバ集	野底宗吉	新城下地島を守る会	1988
604	琉球竹富島の方言	國學院大學日本文化研究所	國學院大學日本文化研究所	1990
605	竹富島の歴史と民俗	亀井秀一	角川書店	1990
606	崎山節のふるさとー西表島の歌と昔話ー	川平永美述、安浜遊地・安浜貴子編	ひるぎ社	1990
607	西表炭坑大物語	三木健	ひるぎ社	1990
608	続・昭和の竹富	大山正夫	大山正夫	1991
609	うつつくみの心 竹富島	大塚勝久	葦書房	1992
610	西表島に生きるーおばあちゃんの自然生活誌ー	山田雪子述、安浜遊地・安浜貴子編	ひるぎ社	1992
611	沖縄・西表炭坑史	三木健	日本経済評論社	1996
612	鳩間島追想	小濱光次郎	小濱光次郎	1996
613	石垣竹富郷友会創立 50 周年記念誌 たきどうん	創立 50 周年記念誌編集委員会	石垣竹富郷友会	1997
614	芸能の原風景ー沖縄県竹富島の種子取祭台本集	全国竹富島文化協会	瑞木書房	1998
615	新井潔米寿記念 竹富島破座間村の狂言	与那国秩・高嶺方祐・石垣久雄・古堅博・与那国勝・新井敏弘	新井潔	2000
616	創立 50 周年記念誌竹富	沖縄竹富郷友会創立 50 周年記念期成会記念誌部会	沖縄竹富郷友会	2000
617	小浜島の歴史と文化	黒島精耕	黒島精耕	2000
618	石垣伸筋会 35 周年記念誌 ふんぬむとう	石垣伸筋会創立 35 周年記念誌編集委員会	玉城憲文	2001
619	西表方言集	前大用安	前大用安	2002
620	創立 30 周年記念誌ー在沖黒島郷友ときわ会ー	在沖黒島郷友ときわ会編集部会	在沖黒島郷友ときわ会	2002
621	竹富部落の起源と発展 【与那国町】	宮良賢貞		
622	与那国島図誌	本山桂川	郷土研究社	1925
623	与那国島誌	池間栄三・新里和盛	池間栄三	1957
624	琉球与那国方言の研究	平山輝男・中本正智	東京堂	1964
625	与那国島民謡工工四 (歌詞解釈付)	富里康子・福里武市・宮良保全	与那国民俗芸能伝承保存会	1970
626	与那国の歴史	池間栄三	琉球新報社	1972
627	どなんー東京与那国郷友会創立 25 周年記念誌	東京与那国郷友会創立 25 周年記念誌編集委員会	東京与那国郷友会	1975
628	与那国島の童謡・子守唄	福里武市	池間苗	1978
629	与那国の民謡	池間龍一	池間苗	1978
630	与那国の文化ー沖縄最西端与那国島における伝統文化と外来文化: 周辺諸文化との比較研究	植松明石・渡邊欣雄	与那国研究会	1980
631	トゥング・ダ (人糞田) クブラ・バリ (久部良割) 伝説考	増尾由太郎	郷土の歴史を見直す会	1981
632	(与那国郷友会) 28 年のあゆみー郷友会 28 周年記念誌	在沖縄与那国郷友会	在沖縄与那国郷友会	1981
633	与那国島の昔話	岩瀬博・松浪久子・富里康子・長浜洋子	同朋舎出版	1983
634	与那国ー島の人類生態学	吉川博也	三省堂	1984
635	与那国の歴史	池間栄三	池間苗	1984
636	与那国の歴史	池間栄三	池間苗	1991
637	与那国物語	宮城政八郎	ニライ社	1993
638	与那国ことば辞典	池間苗	池間苗	1998